

古代ロマン息づくまち

縄文のビーナス 国宝指定30年



SS 下

縄文・市民科学習

野市では、2014年度から市内の全13小中学校（小学、中学校4）で、生活科、総合学習の時間を使った「縄文（縄文・市民科）学習」をスタートした。身近にある2体宝土偶をはじめとする縄文の遺産を教材とした「探究学び」を目指し、小学1年、中学3年までの全学年で取り組んでいる。

実がある。「縄文を深く知る」「自ら生きるヒントを学ぶ」「故郷への誇りと愛着の持てる子どもへの育成」を目標とし、市の教育プラン（縄文のビーナスプラン）の中核となる活動でもある。

小学校では縄文の人・もの・ことを体感する縄文体験活動や探究活動を行う中で「自立・協働・創造」の学びを深めることを目指す。中学校では小学校の

生きるヒント 誇りと愛着



茅野市内の小中学生が縄文時代に思いを寄せながら制作した個性豊かな作品が並ぶ、昨秋の茅野市民館ショーケース
2024「縄文アート～子どもたちの縄文アートが大集合！」

学びを基に、ふるさと茅野市や地域のよき、課題に目を向け、自分なりに探究する活動の中で自立、協働、創造の学びを深める。市教委では「既存の教科学習では学べない内容はもちろん、他の教科では獲得できない価値を学ばせたい」と考える。

体験活動は、土器づくり、野焼き、縄文かるた、染物、火おこし、縄文料理、村づくり、縄文を取り入れた音楽会や運動会の発表など多岐にわたる。市青少年自然の森での宿泊体験の中に組み込む学校もある。9年間の縄文・市民科学習のつながりを大切にして展開している。

毎年、保護者や地域の人たちにも縄文学習の取り組みを知ってもらおうと発表の場も設け

ている。今年度は茅野市の「縄文アート展」や、係の協力でビデオ撮影映（コロナ禍以降）を

縄文アート展は、市案した企画を同館がサて実現する「茅野市民ケース」の一環。ものづ

の発表の場に位置付け年々、出品数も増え、器や勾玉などをはじめ様ランプシェードや麻た衣服など個性豊かな00点余りが館内や中だ。映像は5～10分の作し、年度末に市のビ

ンネルで放映する。市教委では「縄文人に学び、故郷に生きるじられる子どもを育てい」としている。

（この企画は茅野絵画一、平岡大輝、武井舞しました）